

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第2学年

【単元名】 ずんだだんごを作ろう（8時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
<ul style="list-style-type: none"> 自分が育てた枝豆さ大切に使うよさに気付いている。 手間をかけて作ったり友だちと一緒に作ったりするよさに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが作りたと思うだんごの柔らかさになるように水の量を調整している。 願わずんだあんになるよう粒の大きさに気をつけながらすりつぶしたり味付けたりしている。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：畑に自分たちで大豆を蒔き、育ててきた。鳥に食べられたり猛暑による水不足だったり、思わぬハプニングに出会いながら収穫を行った。

生かす見方・考え方：育てた大豆を使い試行錯誤しながらだんご作りを自分ごとにしていくこと。

過程	学習活動（時間）	留意点
思いや願いをもつ	1 ずんだだんごを食べてみよう（1）	<p style="text-align: center;">願いや見通しをもつ場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 地域探検で通るお店にあるずんだだんごを実際に食べることを通して、自分たちで作りたずんだだんごのイメージをもつ。
	2 調べてきた作り方を発表し合おう（1）	
活動への願い：自分のずんだだんごをつくりたい		
活動や体験をする	3 ずんだだんごを作ろう（3）	<p style="text-align: center;">個人で没頭する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 願いやこだわりを明確にしながら、まず自分たちで作ってみる。そして、他の班とできあがりを比べながらもっとよくしたい点をはっきりさせる。
感じる・考える	4 もう一度ずんだだんごを作ろう（2）	<p style="text-align: center;">繰り返し試行錯誤する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 1回目のだんご作りを想起できる掲示物を提示する。 ☞ 味付け、柔らかさ、つぶし方など自分たちのこだわりに近いように2回目のだんご作りを行う。 ☞ できた団子を他の班と交換して食べ比べる。
表現・行為する	5 ずんだだんご作りを振り返ろう（1）	<p style="text-align: center;">対象への気づきを表現する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ これまでの活動を振り返って、できるようになったことや楽しかったことを絵や言葉で表現する。 ☞ 工夫や頑張りを積極的に取り上げる。

次単元へのつながり：作ったずんだだんごをお地蔵様に供えに行く。

・お地蔵様にだんごを供えることを通して、自分たちの作ったずんだだんごのよさを実感する。